

## 第2章 対馬の持続可能性を高める 7つの重点アクション



# 1 環境・社会・経済の調和で同時解決を図る

▷ Point.....◁

- 安心安全に暮らし続けられるよう、食、エネルギー、福祉をキーワードに、問題を1石2鳥・3鳥に同時解決できそうな、地域共生社会、地産地消、持続可能な農林水産業、サステイナブル・ツーリズム(持続可能な観光)、ゼロ・ウェイスト、気候変動対策、域学連携の7つを重点アクションに選出
- 3つの土台(島しょ生態系・歴史文化・風土・アイデンティティ、推進の仕組み、正義)で7つのアクションを支える

## (1)重点アクションの絞り込み

普段の暮らしの中の活動を「SDGs という物差し」で見つめ直してみると、「これは自分の活動に当てはまる」とか「対馬のこれまでのやり方が実は SDGs達成に貢献するものでは？」とか「十分に取り組んでいるけど、SDGs を意識して取り組めばもっと自分、対馬、世界のためにもいいことができそう」とかいろんなことに気づかされます。

「実は SDGs」という活動に対し、単に SDGs という言葉を当てはめるだけでなく、世界が今、「つづかない社会」を「未来へつづく社会」にするために、世界中の人が立ち上がり、世界共通の目標に向けて大きく動いていることを強く意識することで、活動がより実りあるものになり、対馬の将来像に近づけるはずです。

このアクションプランでは SDGs の 17 のゴール、169 のターゲットごとに取り組めそうなアクション、特に普遍的なもの1つ1つを細かく掲載していません。SDGs 達成年の 2030 年までの「行動の 10 年」を切る中、対馬で重点的・優先的に取り組むアクションを掲載しています。重点アクションは以下の視点から絞り込みました。

表1 重点アクションの絞り込みの視点

No.	視点	視点の説明
1	市民意見	SDGs 市民アンケート、SDGs 市民ワークショップでの市民意見、対馬グローバル大学「高校生ゼミ」や対馬高等学校「ESD対馬学」等での若者の意見として挙げられたもの
2	専門意見	SDGs アドバイザリーボードでの専門意見として挙げられたもの
3	環境、社会、経済の調和	SDGs の重要な取り組みポイント
4	同時解決性の高さ	SDGs の重要な取り組みポイント
5	プロジェクトベース	市民、団体、企業、行政など誰もが参加しやすいプロジェクトであること

6	暮らし続けるために必要な食べ物(Food)、エネルギー(Energy)、福祉(Care)の自給率を高める行動	持続可能なしまとして、生きるために欠かせない最重要ポイント
7	島内地域ごとの自立化を促す	地域ごとの特徴や課題に沿った自立的な取り組みになること
8	農林水産業や観光業の存立基盤となり、生態系サービス(めぐみ)を生み出す生物多様性の保全	生物多様性は遺伝レベルから景観レベルまで対馬のすべての基盤であり、その保全に配慮されていること
9	グローバルリスクを念頭に置く:気候変動への対応(カーボンニュートラル等)	この先起こりうるリスクを想定し、予防的な取り組みであること
10	アクション相互の補完性・相乗性	アクション間につながりがあり、組み合わせで取り組むことでさらなる効果の高まりが期待できること
11	「対馬モデル」として積極的な攻めの姿勢	対馬でのチャレンジが国内外の島や地域の課題解決に貢献できるようなモデル性を有していること

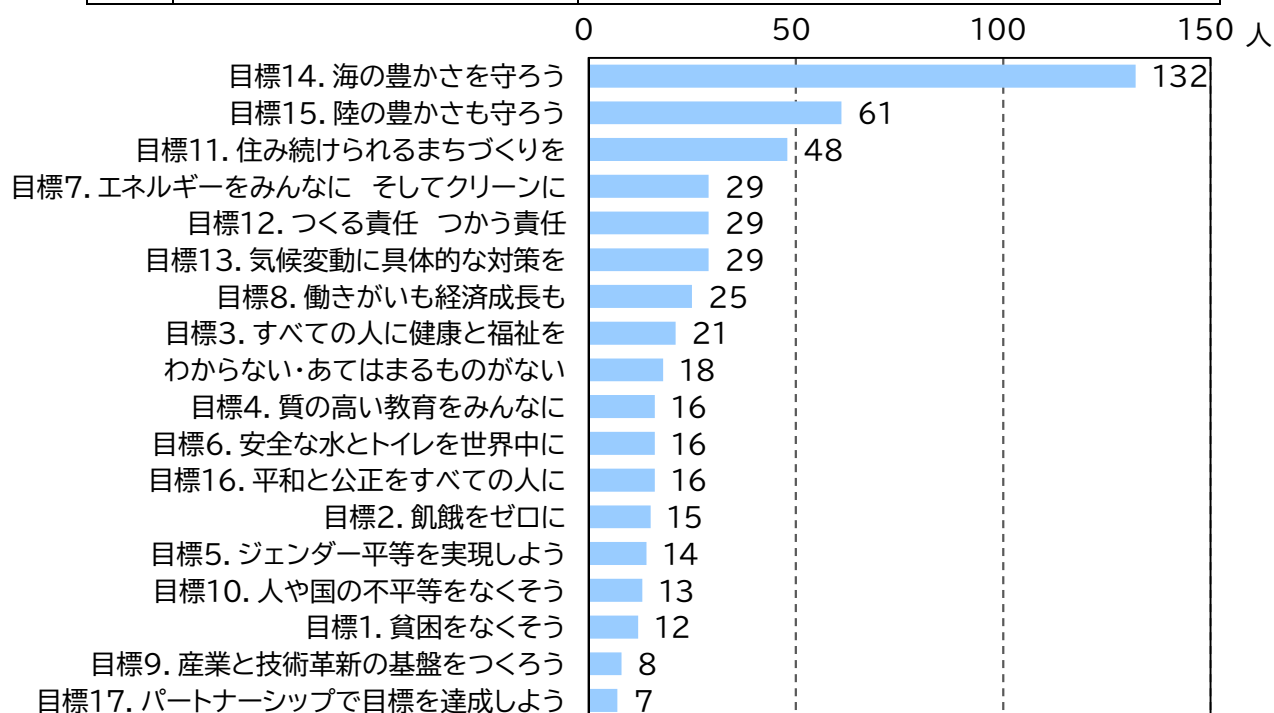


図9 市民が率先して取り組めると思う目標(SDGs 市民アンケート、複数回答)

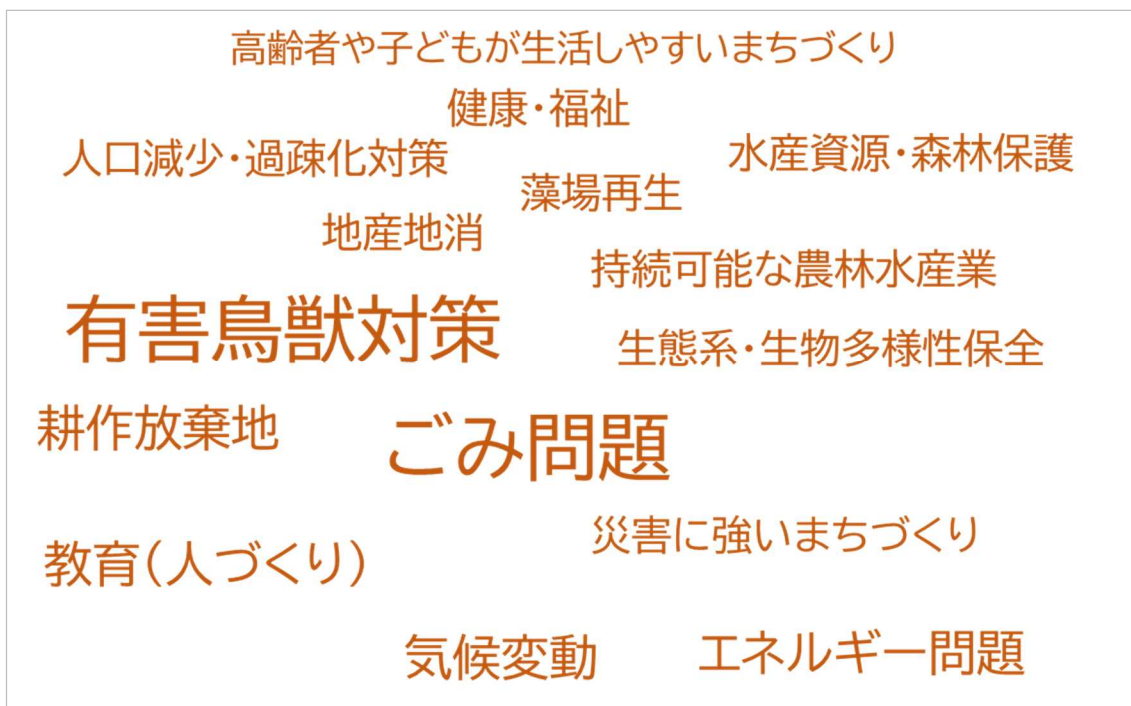


図 10 取り組むべき具体的な内容(SDGs 市民アンケート、複数回答)

注: 文字のサイズは多くの市民から挙げられた内容

## (2) 7つの重点アクションと3つの土台

上記の視点から絞り込んだSDGsの重点アクションは次ページの表2のとおりです。各アクションの詳細な内容は次節に記しています。

これら7つのアクションを進める上で土台になるのが、①対馬の島しょ生態系・風土・歴史文化・アイデンティティの保全、②SDGs推進の仕組みづくり・人づくり、③「正義」の3つです。大樹に例えると、3つは土、水、養分であり、これらがなければ実り豊かなアクションの成果(果実)は得られません。

①について、対馬の豊かな自然・水・生物多様性が無くては、人の暮らしや産業・社会経済は成り立ちません。そこから対馬固有の風土・歴史文化が育まれ、対馬人としてのアイデンティティ(誇り)が形成されます。人と自然・歴史との関わり合いが人を育て、対馬固有の文化を守ることに繋がります。これらを守ることが持続的に多くの人を魅了し続け、観光や移住定住、島づくりに対する様々な支援につながります。

②について、それぞれの重点アクションを起こすには推進の仕組みづくりと担い手づくりが必要不可欠です。推進の仕組みづくりについて、ICTを駆使することで効果的にプラットフォームを形成し、各主体のパートナーシップから生まれた具体的なアイデアを実現するための精神(メンタル)面や金融面での応援体制を構築する必要があります。

③の「正義」について、2030年、2050年も対馬に住み続けられるようにするには、対馬だけでは解決できないことがあります。海洋プラスチックごみ問題のように、都市部での暮らしや海外の社会経済活動が対馬のような離島に間接的に影響を与えていることは、日常の都市生活において気づくことができません。対馬で生じている問題や取り組みを東京や大都市部、海外に伝えながら、正義を問い続けることが根本的な解決につながります。問題の本質に気づかせ、大都市部の行動変容を促せるのは対馬の重要な役割です。

2021年11月に開催された国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP26)で「気候正義」という概念が注目されました。気候変動で不利益を強いられる側が、その原因である化石燃料を大量に消費してきた側の責任を問い、不公正をただそうという考え方です。開発途上国が先進国に対して、次世代の若者が大人に対して、同じ国の中でも弱者が権力を持っている者に対して、「正義」を求めています。これは気候変動に限ったことではなく、海洋プラスチックごみ問題でも、平和問題でも共通することです。対馬が努力すると同時に「正義」を求め続けることが、より多くの共感と協力・参画が得られ、問題解決の力になります。

表2 7つの重点アクション

No.	重点アクション	説明
1	地域共生社会	多様な主体が参画して地域の未来をともに創っていく「地域共生社会」を実現し、誰もが住み慣れた地域にいつまでも安心して暮らせるようにする
2	地産地消	食・エネルギー等の自給率を高め、島外に流出する経済を抑え、島内経済を循環させることで、雇用や所得を高める
3	持続可能な農林水産業	農林水産業で生み出される産品やサービスの付加価値を高め、担い手を確保し、食の自給率を高める。また、農林水産業による環境・社会負荷を軽減し、持続可能な農林水産業を確立する
4	サステイナブル・ツーリズム(持続可能な観光)	観光事業による環境・社会負荷を軽減し、観光サービスの付加価値を高めることで、持続可能な観光を確立し、総合産業である観光を通じ、環境・社会・経済の調和と統合を図る
5	ゼロ・ウェイスト(対馬のごみをゼロに)	海洋プラスチックごみを含め、ごみ全体を減らすチャレンジを通じ、ごみのない美しい対馬での経済循環を活性化させる

6	気候変動対策	環境・社会・経済を脅かすリスクである気候変動に対し、緩和・適応策を推進する
7	域学連携	域学連携により、重点アクションの実行を後押しする。また、オープンイノベーションによる社会実装を通じ、「対馬モデル」を構築し、国内外に成果を発信する

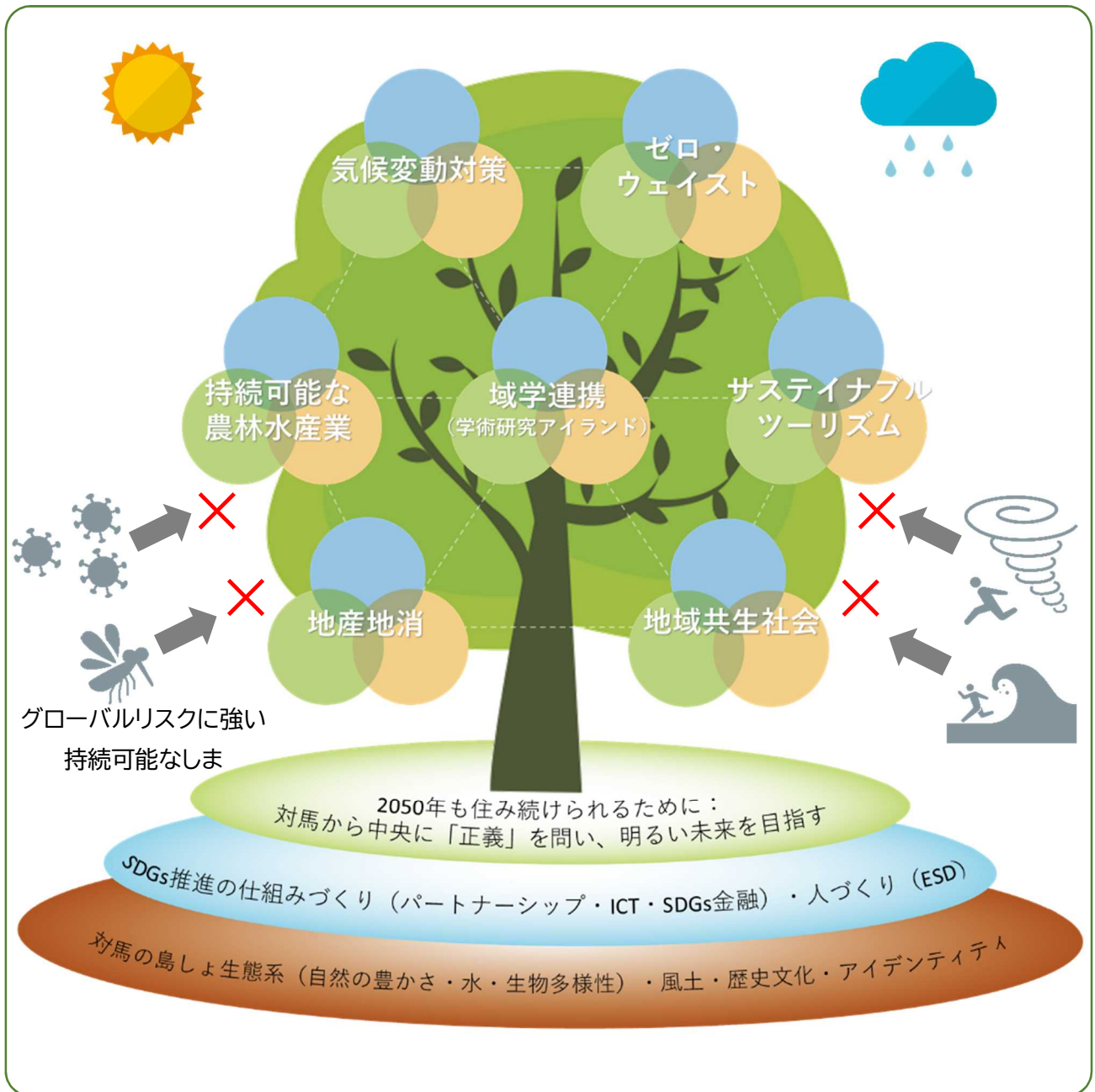


図 11 7つの重点アクションと3つの土台  
3つの土台は、土、水、養分であり、7つのアクションの実りには欠かせない